

新幹線情報

2008年9月8日
第6号

JR東海労新幹線地本

車両所の組織改正を理由とした

管理者からの不当労働行為を許すな!!

会社は、東京第一車両所・第二車両所の業務を今年12月に一部の持ちかえし、来年7月には交検車両所・仕業車両所・修繕車両所と三車両所に「組織改正」として提案しています。そういう中でJR東海労東京第二車両所分会の組合員Fの8月28日付けの「脱退届け」が地本事務所に郵送されてきました。

本人は、十数年前に身体に変調を来し、帰宅する途中に倒れ、瀕死の重傷をおったのでした。それ以来、持病と闘って職場復帰を勝ち取り、しっかりと仕事もこなし必死に生きてきたはずなのです。

そのように長年頑張ってきた人が、ここにきて何故脱退を選んだのでしょうか。

東二両の分会長と本人の話し合いの席では「会社の言葉」を代弁とウソのみで、既に彼自身が発していると思えるような言辞は聞くことが出来ませんでした。

会社から「将来不安」を植えつけられて、それに屈してしまったということです。

TとAとW助役に組織改正後はどうなるか分らないと言われた!!

分会長の「誰があなたの脱退にかかわったのか？」との問いに、本人は、「T助役・A助役・W助役に今後の車両所の組織改正で、どうなるか分らないぞ」と言われたと言っているのです。これは、本人の病気をネタに不安をあおった脅しです。

なぜ、今までJR東海労を脱退することもなく十数年も病氣と闘ってきたFを会社は、言いなりにさせるのでしょうか。まさに会社のJR東海の「葛西」の言うことを聞かないと病氣でも首を切るという脅しに他ありません。

私たちは、会社の恫喝に屈服したとはいえ、仲間を裏切ったFを絶対許さない。会社の反動攻撃に歯を食いしばって闘っている仲間を裏切り、自分だけがよければよいという利己主義に陥った己であることを自覚してもらわなくてはなりません。

そして、このような不当労働行為の横行をわれわれは許さない。組織改正という会社施策を活用し、身体ハンデキャップをも組織破壊のための材料にしたという具体的証拠を以って、法的手段をも駆使して断固とした闘いを推し進める。

全組合員の皆さん！会社の悪辣な攻撃に抗し、働きやすい職場をわれわれの手で創るために更に奮闘しようではありませんか!!

御用組合にいれば会社は守ってくれる?それは幻想に過ぎない!! 京都駅の解雇を見ればそれは明らかだ!!

* 訂正 第5号の情報裏面の東京～大阪82:181は、82:18の誤りです。